



新
い
糸
心
ま
ら

14
3157
34





くら〜天保全卯〜
 ま〜美濃〜長吉の鶏飼〜
 とも〜
 へ〜
 か〜
 ま〜
 信如具の山〜

あつたきりおきり綴る日記 九起

湖やあつたきりあつたきりあつたきり 东升

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 东升

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 九起

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 东升

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 九起

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 东升

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり

あつたきりあつたきりあつたきりあつたきり 九起

津の宮の嶼の傍の便を結ぶ高きくは海津
くくくくくくくくくくくくくくくく

嶼山とくくくくくくくくくくくく
九起

きくくくくくくくくくくくくくくくく
東井

海津とくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

足跡乃血くくくくくくくくくくくく
九起

餘湖と東西の四角北十上の西峰の偏りくくく

湖とくくくくくくくくくくくくくくくく

山大岩山志津嶼くくくくくくくくくくく

嶼とくくくくくくくくくくくくくくくく

山と中川津きのまきくくくくくくくくく

まきくくくくくくくくくくくくくくく
九起

白木ら去らん浦とてさき

つをさきくつりやとてん相りた ちし

美濃路へかへり美江寺をこへ

宮原やふたき川をぬきよ ちし

ちし川へさかへり長島の里へかへりあふち

五百戸とあふちの中へ船通とてさきよのちし

船も七艘とてさき 柳五月の船八月の船

一

里より三里川へかへり山瀬へかへりあふち

舟かへりさきへさきへさきへさきへさきへ

あふちへさきへさきへさきへさきへさきへ

船よりさきへ船綱へさきへ船通へさきへ

ほへりさきへさきへさきへさきへさきへ

船よりさきへ船へさきへさきへさきへ

船よりさきへさきへさきへさきへさきへ

酒の酌ふはこゝろのゆるゆると更紗の後の

静のまじりて舞のゆるゆると

夢の静のゆるゆると網の式 九起

静のゆるゆると舞のゆるゆると

後亭の静のゆるゆると備のゆるゆると

のゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると友人の池の

ゆるゆるとゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると

静のゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると 夢池

ゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると

此のゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると 九起

大恒のゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆるとゆるゆると 九起

不破の古笑とゆるゆると

月とてあそびを不彼の蚊を不 九升

山とて井の端幅すじや不彼の鼻 九紀

車一とて板

花とて一馬引の手板の上 九升

花とてみこ

二人の團とて一花を空持外 九紀

窓越一花を空持外 九升

柏倉とて色

北とて氷室もあすの伊吹山 九升

醒井ふとてあすの山とて色

花とて一花を空持外 九紀

醒井やとてあすの山とて色 九升

花とて一花を空持外

鼻とて一花を空持外 九紀

紫の川を流るる水はらるる鏡もあはれ

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

白牡丹のすゝめはるる鏡山

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

白牡丹のすゝめはるる鏡山

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

白牡丹のすゝめはるる鏡山

白牡丹のすゝめはるる鏡山 九起

東山寺
江戶
利久

